

平成 28 年度 「中学生チャレンジテスト」における 南港北中学校の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成 28 年 6 月 23 日（木）に、第 3 学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ③ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評価の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第 3 学年
- ・ 南港北中学校では、第 3 学年 90 名

3 調査内容

- ① 国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成28年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 南港北中学校

【 第 3 学 年 】

生徒数(人) 90

平均点 (点)

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	60.2	54.8	46.8	35.4	59.2
大阪市	58.8	52.7	47.1	37.6	56.8
大阪府	59.6	52.2	48.1	38.6	57.9

平均無解答率 (%)

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	10.3	4.7	8.7	9.7	5.2
大阪市	10.7	6.0	8.6	9.6	5.5
大阪府	10.1	6.4	8.3	9.7	5.4

結果の概要

平均点は、国語・社会・英語においては、大阪市・大阪府の平均を上回っている。数学・理科においては大阪市・大阪府ともに下回っている。また平均無回答率は、社会・英語においては大阪市、大阪府を下回っている。国語においては、大阪市を下回っている。国語・社会・英語に関してはおおむね良好な成績をおさめている。領域・観点の問題別の分布をみると、理科に関しては、大阪府と比べると観察・実験の技能が高く、自然現象についての知識・理解が低い。他の教科に関しては、ほぼ大阪府の分布と同じ傾向である。

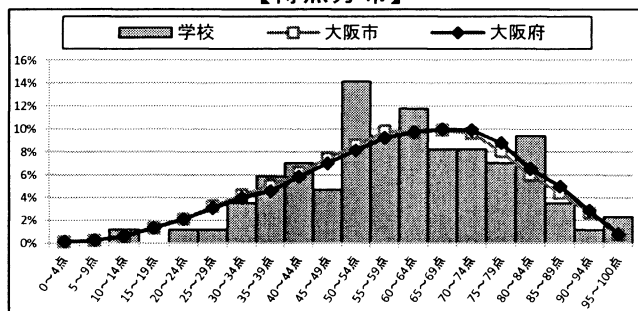
成果と今後取り組むべき課題

国語、社会、英語とも個に応じた指導による、習熟度別少人数授業、TT授業の成果が効果的に現れていると考えられる。数学に関しては、昨年度は大阪府を上回っていたが今年度は下回ってしまった。領域・観点別の問題を見ると数学は大阪府と比較しても平均的であるが。理科は、科学的な思考自然現象について知識が著しく弱い。自然に関する興味関心を引き出せるような授業を展開していきたい。全教科とも、記述式の問題や表現能力見方や考え方に関する問題が弱い。ICT機器等も活用し表現能力や考え方などを身につけれるよう工夫をしていきたい。

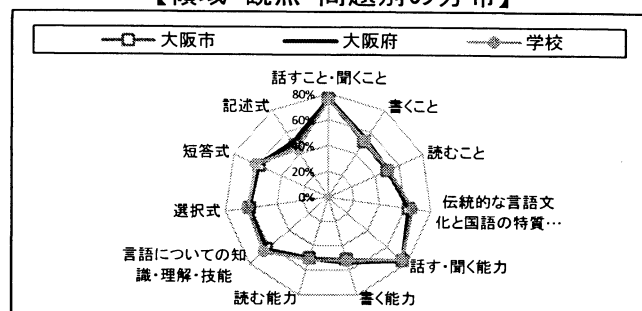
【第3学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

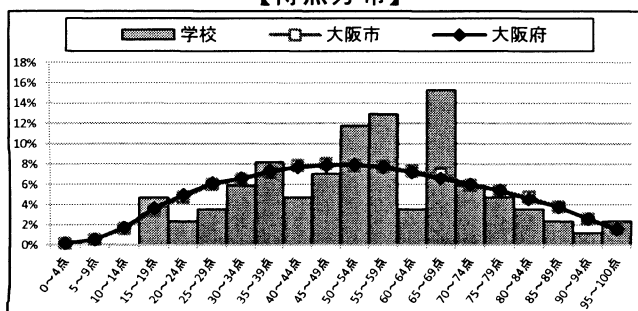


【領域・観点・問題別の分布】

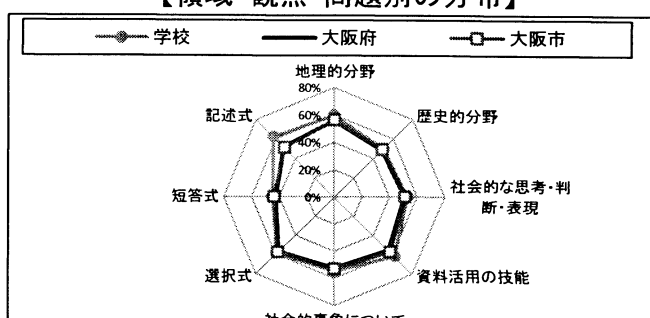


【社会】

【得点分布】

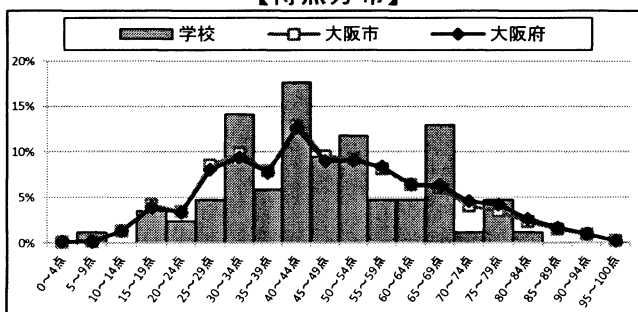


【領域・観点・問題別の分布】

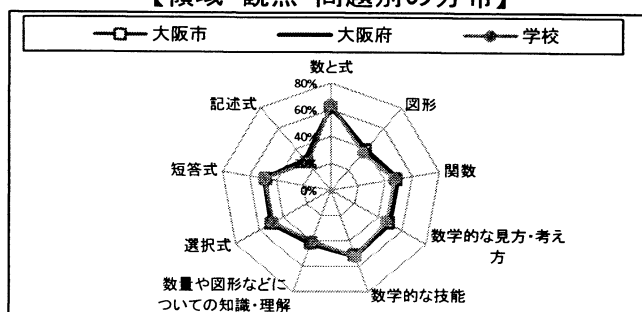


【数学】

【得点分布】

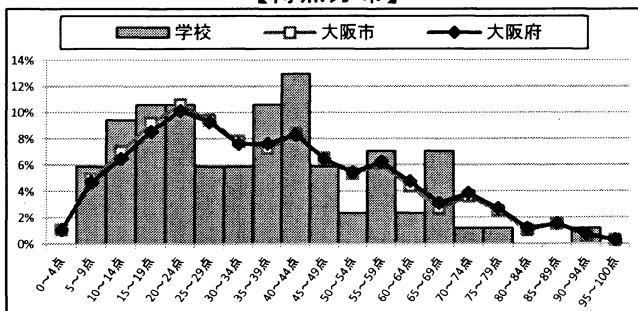


【領域・観点・問題別の分布】

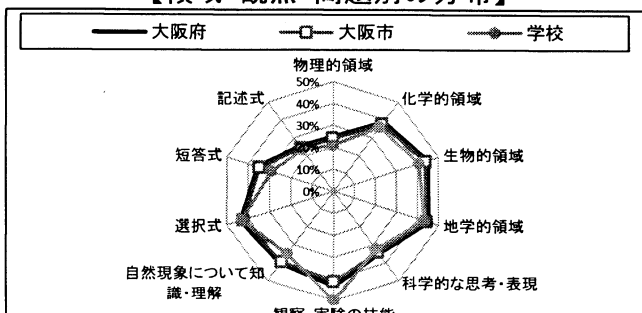


【理科】

【得点分布】

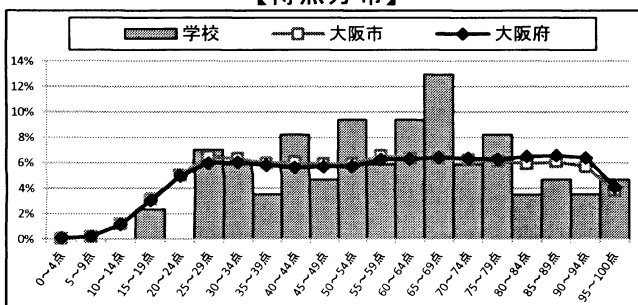


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

